

水と緑と風の参道

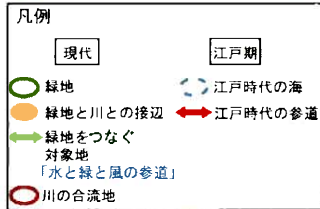
—住吉へ—

住吉大社—上町台地の西の端に位置するこの神社は、言い伝えでは211年から存在し、今なお大阪の歴史ある名所として人びとに親しまれている。少し西に行けば大阪湾が広がり、昼は海から吹き上げる風、夜は上町台地から吹き下ろす風を受けている。昼は海から住吉大社へ向かい夜は海へ帰っていく、お参りしているかのようなこの風を利用し、大阪の夏を少しでも涼しく感じられるような快適環境を考え提案する。

【対象地】



東には住吉大社と住吉公園、西は住之江公園と、三つの緑地に囲まれている。細井川と、十三間川とが合流して住吉川に流れ込んでいる。住之江公園と住吉公園はそれぞれ一辺が川に接している。

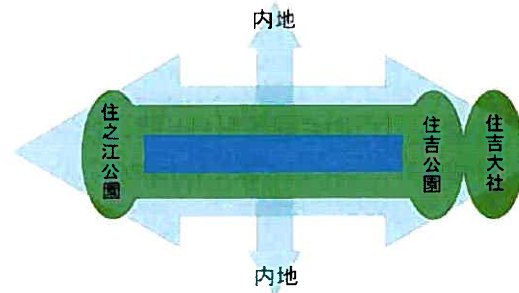


【現況】

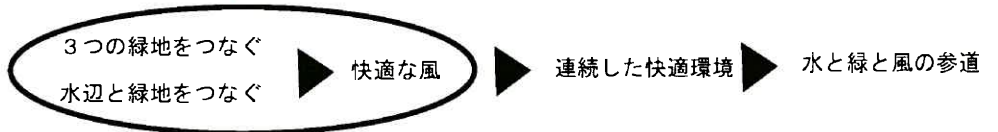


三面張りのコンクリート護岸で、人は水面に全く近づけず親水性がない。海からの風も、切り立った護岸に防がれて効率よく周辺に運ばれない。堤防の上には多少の植栽はされているが、途切れ途切れで連続性がない。

CONCEPT



住之江公園、住吉公園、住吉大社を川だけでなく緑でもつなぎ、景観的にも質的にも連続性をもたせる。また、緑地と川が接している部分の親水性を高め、人が川に近づける快適な環境を創出するとともに、川をつたってくる風も緑地にふれやすくする。そうしてできた快適な風を、川沿いだけでなく内地の方まで呼び込む工夫をする。



江戸時代の頃まで、住吉公園から西は海であった。そして住吉公園は住吉大社の参道であった。もとは海であった住之江公園と参道であった住吉公園、そして住吉大社が「水」「緑」「風」でつながり「水と緑と風の参道」が完成する。このつながりを人びとがジョギングや散歩などで利用できるようになれば、かつての参道が、現代的な意味合いも付け足されて新たに生まれ変わることになる。



■つなぐ

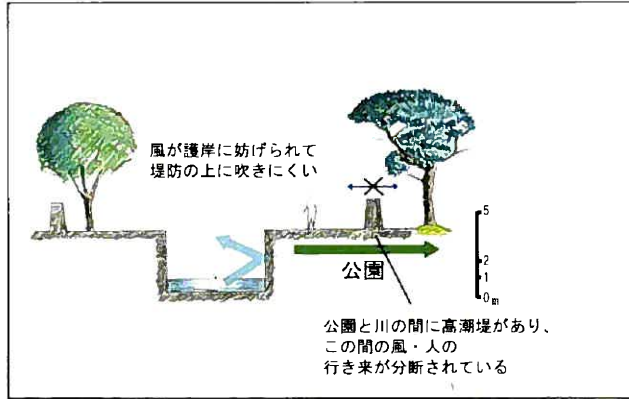
右の写真のように、現況では分断されている川と公園を、下の[計画断面]のようにつなげる。
 これにより、親水性がたかまり人が涼しげな水辺に近づけるだけでなく、川をつたって吹く風が公園に入りやすくなり、緑のちからで冷やされる効果も期待できる。
 また、緑地同士にもつながりをもたせるため、川沿いの植栽を充実させる。
 植栽する樹種としては、元々江戸時代は海だった歴史を配慮し、海辺に合うクロマツ、そして水辺全般に合うシダレヤナギなどを積極的に植栽する。



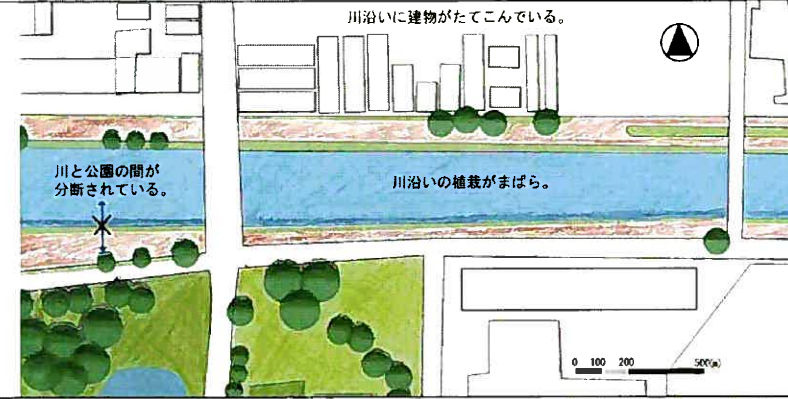
■呼び込む

川をつたってくる風を内地に呼び込むために、[計画平面]のように川から内地の方へ植栽を伸ばす。
 さらに、風の受け入れ口の部分には、風を効率良く取り込めるように、下の図のような住宅を配置する。
 また、この住宅に付随して、風の通り道に雨水の溜まる窪地を設け、雨が降った時は屋根からこの窪地に水が落ち、その窪地の上を通る風が気化熱によって冷やされる。
 また、雨が降ってない時でも、風は図の大屋根の下をくぐってくるため、多少冷やされて流れてくるのが期待される。

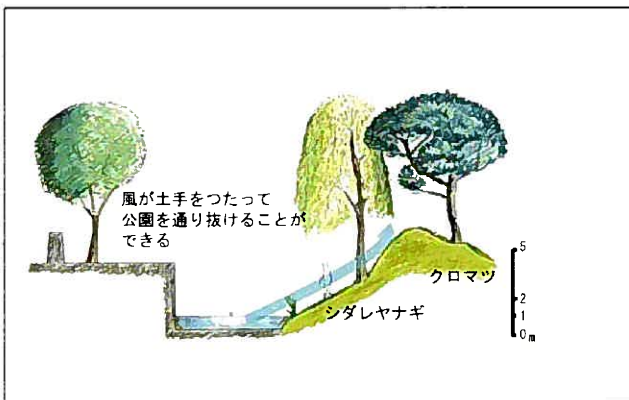
[現況断面]



[現況平面]



[計画断面]



[計画平面]

